

## 文科省の改革案から今後の英語教育について考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 今朝の「開倫塾の時間」では、先週の12月13日(金)に文部科学省から発表になった英語教育改革案について少し御説明をさせていただきます。
3. 文部科学省は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックまでに達成を目指す、グローバル化に対応した新しい英語教育の目標を示しました。「英語のコミュニケーション能力をもっともっと高めよう。そして、グローバルに活躍できる人材を育成しよう。海外から日本に来られる方に対して十分なコミュニケーションができる英語能力を備えよう」というような趣旨で、次のような目標を設定しました。それは驚くべき目標です。高等学校では、英語で英語の授業を行う。そして、言語活動を高度化して発表や討論、交渉などを行えるだけの英語能力をつけたい。具体的には、ある程度の長さの新聞記事を速読して必要な情報を取り出したり、社会的な問題や時事問題(今このようなことが起こっているということ)についての課題を研究したりしたことを英語で発表することができる程度の英語能力を求めています。さらに具体的に言うと、高校卒業段階で実用英語技能検定(英検)の2級・準1級を目標として取らせたいとしています。これは驚くべき話です。英検2級は高校卒業程度、準1級は短期大学卒業程度や4年制大学の中盤ぐらいのレベルとされているからです。英語教育改革案では、高校卒業までに英検2級・準1級が取れる程度をもって達成目標としています。
4. 中学校については、英語の授業を英語で行うことを基本にして、内容に踏み込んだ言語活動を重視するとしています。つまり、身近な事柄を中心にコミュニケーションを図ることができる能力を養う。具体的には、短い新聞記事を読んだり、テレビの英語のニュースを聞いたりして、概要を英語で伝えることができることを求めています。さらに具体的に言うと、英検の3級・準2級程度を、中学校卒業までに身に着けるべき達成目標としています。英検3級は中学校卒業程度から高校1年生程度、準2級は高校1年生終了程度から高校2年生程度だと言われているので、かなり高い英語の運用能力を求めていることになります。
5. 小学校については、高学年(5・6年生)は英語の専門教員を積極的に活用して週3～4回ぐらい英語の授業をし、読むことと書くことを含めた初歩的な運用能力を養うことを正式に行いたいということです。中学年(3・4年生)は、担任の先生を中心に45分の英語の授業を1週間に1回か2回行い、英語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体得・体験する。このようにしてコミュニ

ケーション能力の素地を養うことが、新たな英語教育の目標になりました。これらを 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックまでに全部の小学校・中学校・高校で行ってほしいというのが、文部科学省の英語教育の目標の内容です。

6. この報道が先週の金曜日の夜にあり、全国の高等学校の英語の先生・予備校の先生・学習塾の先生方は本当にびっくりしてしまいました。一番驚いたのは、英検準 1 級を高校卒業段階の到達目標・達成目標として掲げたことです。また、英検準 2 級程度を中学校卒業段階の達成目標として掲げたことです。今までは高校卒業までに英検 2 級に受ければよいのではないかと、中学校卒業までに英検 3 級に受ければよいのではないかとという議論がされていて、学校・学習塾・予備校など様々なところでそれに相応する取り組みをしていました。しかし、高校卒業までに英検準 1 級、中学校卒業までに英検準 2 級ということになると、話はがらっと変わります。英語の勉強をよほどしないと、高校卒業までに英検準 1 級には合格できない、中学校卒業までに英検準 2 級は取れないということになりますので、これから非常に激しい議論が巻き起こるのではないかと思います。

7. ただ、このこと自体は悪いことではありません。英語をもっともっと勉強して運用能力を世界の方々と同じレベルまで高めたいということですので、素晴らしい内容だと思います。特に、英語は語学で読む力、聞き取る力、書く力、話す力、つまり「読み・書く・話す・聞く」の 4 技能が非常に大事だということですので、これらの技能を万遍なく身に着けて英語の能力を磨いていくことは素晴らしいと思います。

8. また、英語を話していると、アイデンティティといいますが、日本人らしさ・自分自身は何者かということをととても感じますので、英語教育にプラスして日本文化の発信、アイデンティティに関する教育を強化するということです。具体的には、我が国の歴史や伝統文化、国語に関する学習の一層の充実のためにいろいろなことをする。特に、国語の授業時間を小学校で 84 時間、中学校で 35 時間増やす。古典に関する指導を重視して、小学校の低学年・中学年でも古典の内容を新設する。文学の教材をもっともっと充実させる。小・中・高等学校を通じて国語をはじめとする全教科で説明・論述・討論等の言語活動を充実させる。このようなことを積極的に行うということなのです。

9. さらに、伝統文化(そろばん、和装、和楽器、美術など)を充実させ、武道を必修化する。歴史学習の充実を図り、小学校では我が国の文化遺産の学習を新設し、中学校では授業時間を 130 時間増やす。中学校・高校では、近現代史を重視する。近代史は明治維新以降、現代史は第二次世界大戦以後現代までの歴史です。このように、歴史ももっともっと重視する方針です。そして、道徳教育も改善し充実するということです。ですから、英語教育の充実を通して日本の様々な教育をもっともっと充実していくのではないかと思います。非常に期待できる教育改革です。

10. 今日は、先週の 12 月 13 日(金)に文部科学省から発表になった新たな英語教育の目標についてお話をさせていただきました。